

週間聖書勉強の学び

＜「愛」が示す恵み＞

高大韓 伝道師

ヨハネの手紙は「愛の章」と呼ばれています。これだけ愛についての御言葉が最も多く出てくる御言葉でもあります。ヨハネの手紙は私たちにイエス・キリストの大いなる愛と異端に対する警告を話します。

ヨハネの手紙の結論は、どんな混乱と葛藤の中にも、何よりも神さまがどんな方なのかを知らなければならないということです。ヨハネの手紙1章5節、「神は光であり、神には闇が全くない」と言います。神さまには、闇が全く存在しません。闇を明るく照らす光であります。闇は光に勝つことはできません。神さまはその光なのです。また、神様は完全で公儀で愛で正しいです。神様は愛であります。

私たちが神さまに救われるためには神さまの動きを必ず知らなければなりません。ヨハネの手紙では、私たちのために執り成しを続け、また私たちの罪を許すための方であると繰り返し話しています。イエス・キリストを告白する人たちは、その方の中で生きているのです。私たちはイエス様の生涯と死と復活を通じて、私たちは神さまの弟子となりました。私たちへの神の愛とイエスが十字架を死によって、私たちは新しい命を受けることができました。その愛を私たちも周りにいる人々に神様の善良な心とその愛を謙遜に現す私たちになることを心からお祈りします。

★

村上正子

季節も早いもので秋から冬に向かおうとしています。この二年余りコロナ禍にあって色々な経験をしました。しかしどの様な状況にあっても神様が私達の側にいてくださり、見守ってくださる事 感謝です。そして徐々にですが日常の生活に戻る様になってきました。対面の礼拝も出来る様になり、主の御言葉を兄弟姉妹と分かち聞ける事をうれしく思います。私は少しずつですが日々聖書を読み、祈り、テニスを楽しみに過ごしています。毎日、色々な事が起きますが全て神様に寄り頼み歩みたいと思います。「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。」(ヨハネによる福音書 14:6)



★

李淑連

私の家の前にある公園を6年前から毎日朝と夕2回掃事をして歩きました。初めの頃は手のつけようのないほどきたなくて汚れていました。それを見ていた子供達や大人が不思議そうに見ていて、ある日「おばさん何でそんなことをしているの」と尋ねたので「おばさんは皆様がきれいな所で遊んでもらい

たいから掃除をしているのよ、あなたも自分の家で食べ残しやジュースの缶をくずかごに入れるでしょう」と聞くと「はい」と答えました。「公園であっても家であっても一人ひとりがお互い助け合ってくれにしましょうね。」毎日毎日ごみ袋とハサミを持ってゴミを拾いました。そのうちに子供達が「おばさんいつもありがとう」と言ってゴミを拾って袋に入れてくれました。子供達の心の中が見えてきました。人は見ていないようでも、見ているのです。他の人も来て何かをして手伝ってくれました。本当に感謝します。私を見ると「おばさん、今日はぼくたちがゴミを拾って掃除をした」と言ってくれます。私は「ありがとうね、助けてくれてあなた達も良い事をしたので楽しいでしょう。皆さんの公園ですから一人ひとりが力を合せて美しい公園にしよう。」沢山の人が来て遊んで帰ります。今はコロナで学校も休みで行く所がなかった。私達の公園はいつも小さい子供から学生、大人達でいっぱいです。「何でここに来るの」と聞くと「この公園はきれいに掃除してあるから」と言ってくれます、感謝です。私は83才になっても、自分が出来ることを見つけて掃除をします。また子供達が喜んで遊んでいる姿を見ると元気が出ます。子供達と私は仲良しになっていろいろなお話をします。楽しい毎日です。ハレルヤー

「神の恵みが子供達の心の中に聖霊を注いでください。イエスキリスト名によりお祈りします。」  
賛美歌 327 「主の平和を」



★

康玲子

昨年からのコロナ禍。本当につらくて困ったことばかりだけれど、一つだけよかったのは、オンラインでさまざまな集まりに参加できるようになったことだ。

本当は、実際に顔と顔を合わせてお会いできるのが一番よい。それはもちろんだが、集会や研修会によっては、遠方での開催であるために、リモートでなければ参加をあきらめていたのでは？ というものもある。自分の部屋で、貴重な学びにあずかることができることは、本当に感謝なことだ。

4月18日には、KCCJ(在日大韓基督教会)主催の人権シンポジウムに参加し、その時国会で審議されていた入管法(出入国管理及び難民認定法)の改定法案について、佐藤信行先生や駒井知会弁護士のお話を伺うことができた。3月に、スリランカ人留学生のウィシュマ・サンダマリさんが、名古屋入管施設で適切な医療を受けられないまま亡くなられたが、他にも多くの問題があると教えていただき、驚いた。この法案は5月に国会での成立を見送られ、廃案となったが、今後も私たち外国人をめぐる人権の状況について学んでいきたい。

また、10月4日と25日には、KCCJ平和統一会議準備委員会主催の「『韓(朝鮮)半島の和解と平和のために』オンライン学習会」第3回、第4回に参加することができた。

第3回では、在米韓国人牧師として北朝鮮に入られた崔在永先生から、北朝鮮のキリスト教会について伺うことができた。朝鮮キリスト教連盟とつながりのある500以上の家庭教会が礼拝を守っていることなど、知らないことばかりで、大変勉強になった。

第4回には、恵泉女学園大学の李泳采教授から、「戦後日韓関係の基本構造と朝鮮戦争終結の可能性」というテーマでお話をいただいた。現在の朝鮮半島と日本を取り巻く状況をどのように見ればよいのか、東アジアの平和を実現するためには何を指すべきなのか? 誰も戦争は望まない、南北は

まず平和共存を目指すべきだし、日韓はあくまでも協力していくことが唯一の道だ——心に刻まれた。

この学習会は、第1、2回も参加しなかったが、開催を知らなくて参加できず残念だった。今後も、ぜひオンラインでも参加できる形での開催をお願いしたい。

「義の実は、平和を実現する人たちによって、平和のうちに蒔かれるのです。」(ヤコブ 3:18)



### ★ 感動を持って再び

金仁姫

今は With コロナで少しずつ活動が再開されているが、この2年を振り返ってみると、コロナによる「止まり」と「変化」が同時に共存していたようだ。

最大の变化は、自宅にいる時間が圧倒的に多かった2年だったこと。それまで家は休息空間だったが、いつの間にか教会の奉仕と学校の仕事をする空間に変わっていた。変化した毎日の暮らしを忙しく送ったが、以前とは違って、何かが止まってしまったこともあった。何よりも季節が止まってしまった。自然を見ながら季節の流れを感じて生活して来たが、そのまま毎日を感じられず、過ぎてしまって、いつの間にか11月だ。

よくよく考えてみると、私の信仰生活もそうだったのではないだろうか。言葉で武装し、毎日忙しく奉仕すると思っていたが、その奉仕はもしかして、何も感じなく閉鎖的なものだったのではないだろうか？ 気楽な空間での姿ではなかっただろうか。御言葉でいらっしゃる方が、その言葉で命じた地上命令を安住した空間でのみ見ようとしたのではないだろうか。

この間、京都教会でお話をいただいた新島短期大学の李元重牧師が祝祷の前に伝えてくださった祈禱文は悔い改めになったので、皆さんと分かち合いたい。

「平和の心でこの世に進み出てください。勇気を持って、善を掴み、誰にも悪を悪で返さず、心の弱った者たちに勇気を与え、弱い者たちの力になり、苦痛の中にいる者たちを助け、すべての人々を尊敬し、聖霊が下される力の中で、喜びでもって主を愛し、仕えてください」

これは米国の長老派教会が宣教師を派遣する時に下される言葉だと聞いた。もう一度聖霊様が下される力で、世の中に進み、仕え、生きがいのある人生を生きることを祈る。

### ★ 賢者の贈り物

柳恩愛

京都教会 女性会の皆様こんにちは。柳恩愛と申します。大阪生まれの私が京都に結婚できて37年(早!)夫の通っていたこの京都教会に自然に、何の違和感もなく通うようになりました。というのも私もクリスチャン家庭で育ったクリスチャン2世の在日2世。夫も同じ環境。当時は全協と呼ばれる全国青年会の人数も多く、夏の修養会や冬の指導者研修会、春の関連(関西地区の青年の集まり)等々。多彩なプログラムに多くの青年達が集まり楽しい時間が多く持たれたのを「青春時代の宝物」<神様からの贈り物>と、心の中の箱に今でも沢山詰めています。そして、時々はその箱を開けてみて「あ～

あんな時代もあったなあ…あの時はよかったなあ…」(笑)結婚してからは…???皆様も同じような思いを数多く経験しながら、結婚生活を送っていらっしゃる方が多いのでは? (諸先輩方又色々教えてください)

「なんでやね〜」「ええ加減にして欲しいわ〜」「もう無理!」「逃げ出したい〜」

(あー逃げ出したこともあります…ハハハ〜)

他人同士が生活をするという事は、こういうことなんだ…と。ので、教会に行くことが、無理であり、嫌な時も沢山ありました。何故?なら、教会に行くと<仲の良いふり><円満な家庭><良き妻・長男の嫁>等々を演じている自分がいるから。神様はみんな知っているから。臆ずかしかったから…。こんな自分が信仰を置いていいのかと…それでも通い続ける事が出来たのは、勿論神様の導き、両親の祈り、そして京都教会でいつも声をかけて下さる女性会の多くの先輩達がいたからこそ!

「元気でしたか?」「久しぶりに会えてよかったわ」「ゆっくり話を聞きますね」

時には、神様からの使者?天使?に見えたこともあります。

～弱っている私に神様からの贈り物が届いた～

今は60歳も超えて随分罔太く?なったような今日この頃?ですが…

クリスマス近くになると、オー・ヘンリーの短編小説「賢者の贈り物」を思い出します。

貧しいけれど仲の良い夫婦が、相手へのクリスマスプレゼントにお互いの一番大事なものを売り相手への贈り物を買う物語です。夫は懐中時計を売り長い髪の妻に櫛を。妻は自慢の長い髪を切り夫の懐中時計に合うチェーンを買う。お互いの事を想い、

相手の為に、誰かの為に、自分以外の人の為に…

～私は誰かの為に贈り物が出来ているのかな?～

まだまだ出来ていないことが多い私ですが、そんな人になりたいと。そんな信仰生活がしたいと。「神様の導きがありますように」と祈り、今日も一日が始まります。



♡♡ 「主が望まれるのは主を畏れる人 主の慈しみを待ち望む人。」

詩編 147:11

♡♡ 次回の女性会聖書勉強会は2022年2月1日(火)10:30~12:00です。

(教会の行事のため原則12月、1月、8月はお休みとなります。)

※メール(mison3252@gmail.com)

教会あて TEL(075-311-5051)/ FAX(075-313-3778)、郵送など。

教育部・林美善まで。